

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700434		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	(有)リアン グループホーム えみな栄町		
所在地	北海道岩見沢市栄町2丁目1番9号		
自己評価作成日	平成29年3月8日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700434-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 3 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様、また地域の皆様との絆を大切に、多くの笑顔を生み出す事ができるような支援を目指しています。
医療との連携により、入所から看取りまで、ご利用者様の要望や状態にあったケアを行い、その方らしい最期を迎えられる「看取り」までを行っています。
日常生活では、ご利用者様とスタッフ、ご利用者様と地域社会、スタッフと地域社会、共に生活を楽しみ、共に笑顔を持てるような関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は人材育成を重視しており、外部研修、法人全体研修、事業所内研修など研鑽の機会を多く提供しています。また、日常業務の経験を通して職員の介護技術を高め、利用者への質の高いケアサービスの提供に努めています。
廊下の両側に事業所と小規模多機能事業所の居間があります。事業所は避難訓練や夏祭りの合同開催、利用者の交流、職員の相互協力、機械浴室やトイレなど共有空間の相互利用など一体感のある運営に取り組んでいます。
町内会の新年会や総会への職員出席、花壇整備や盆踊りへの利用者参加など地域の行事へ積極的に参加しており、中学生の体験学習受け入れや法人主催の敬老会に中学生の演奏ボランティアを迎えるなど事業所と地域住民との交流を行っています。
介護理念の「絆」は利用者だけでなく家族への繋がりも含んでおり、来訪した家族への丁寧な対応や、事業所便りと一緒に個人別写真の送付を行っています。毎年実施している家族アンケートによる意見や要望の把握などにより家族との信頼関係を構築しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します			
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印		
				66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない		
69	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内の目につきやすい場所に掲示しており、日々の業務の中でも確認できるようにしている。また、行事やミーティングの際にもスタッフ全体で確認している。	「絆」と「笑」をキーワードとする基本理念を事業所内に掲示しています。ミーティング等で理念の理解と確認に努め、利用者のケアサービスに反映しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や外出の際に出会う地域の方への挨拶、また運営推進会議に出席いただく町内会の方とも交流を持つなど、地域の一員としての意識を持って生活している。	新年会、総会、花壇整備、盆踊りなど町内会行事へ積極的に参加しています。また、法人主催の敬老会に中学生の慰問があります。事業所では幅広い年代との接点ができるようにしており、学生の体験学習の受け入れや併設の小規模多機能事業所の利用者と日常的に交流があります。	事業所は地域の一員として行事参加など交流を行っていますが、地域において認知症への理解が深まることで利用者の活動の場が広がり、更に多くの人との日常的な交流ができるよう、取り組みや情報発信などについての検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、食事・口腔ケア・地域包括ケアシステムについての講演や劇などで、認知症や高齢者への理解を深めてもらえるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状報告を行い、出席者の皆様より意見をいただく事で、サービス向上に役立てる事ができている。	運営推進会議は、家族や行政、町内会関係者が参加し、時にはテーマ設定による講演会を含めて定期的に開催しています。会議で提案された意見や要望は事業所で協議し、運営に反映しています。	運営推進会議は事業所の現状を周知し、よりよい事業所運営を図るための取り組みの一つです。会議の活性化を計り多様な参加者を募ることで多様な意見やアイデアを得たり、事業所のモニター役となってもらえるよう取り組むことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の状況や取組について伝える事でより良い協力体制を築く事が出来ている。	運営推進会議に行政関係者が参加しています。保護課職員来訪時の職員との懇談も行っています。管理者が書類提出や相談等で随時、担当窓口を訪問するなど行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止対策等、行動制限防止にかかる規定を用いて内部研修を行い、全スタッフが統一した理解を持って業務にあたっている。身体拘束は行っていない。	職員は、法人が独自に整備した身体拘束をしないケアのマニュアルを参考にし、関連の研修受講や日常業務を通して確認と実践に努めています。日中は玄関の施錠は行っていないが、センサーによって出入りが分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、その内容を全体ミーティングの際に発表するなどフィードバックさせ、全スタッフが共有して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加等、積極的に学習機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明は十分な時間を取り行っている。また普段からの関わりの中でも、疑問点を尋ねたり会話の中から汲み取った不安などをスタッフで共有し早期に解決できるよう努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に、ご利用者様とご家族様の意見をいただいている。また、来所時にご家族様とも積極的に会話をもち、いただいたご意見を反映させるよう努力している。	職員は、敬老会などの行事や利用者に会いに来る家族へ利用者の様子を丁寧に伝えていきます。また、事業所便りと利用者の写真を一緒に郵送しています。毎年、家族にアンケート調査を実施して意見や要望を把握し、事業所運営に活かすよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案できるような体制作りと、話しやすい雰囲気を作り、スタッフの声を反映できるようにしている。	職員は、管理者や実務にも携わっている法人代表と日常業務やミーティングを通して自由に話し合う関係が出来ており、意見や提案があれば検討して運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修への参加、また資格取得への意欲などを報告により把握し、向上心を保てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは積極的に参加させ、また個人から希望のあった研修への参加を認めるなど、働きながらの質の向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修の参加を推奨し、その場で同業者との交流を持つ事により意見交換を行い、自事業所へ持ち帰る事ができている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もないご利用者様には、時間をかけて関わりを持ち、直接の質問だけでなく、会話の中からその方の不安や心配事を汲み取れるよう、スタッフ同士の協力のもとゆっくりと過ごせる時間を持ち、安心できる関係づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、しっかりとコミュニケーションを取り、不安や要望について聞き取りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様ともに入居前の段階で面談などを組み、ニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物たみ、または掃除などを生活リハとして取り入れるとともに、役割を担っていただく事で、暮らしを支え合う関係を保てるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに居室の掃除や片づけをしていただいたり、外出や外食に出かけられるなど、ご家族様もともにご利用者様を支えている意識を持っていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人などが尋ねてきた場合は、ご本人の意思を確認した上で、ゆっくり面会できるよう支援を行っている。	利用者の馴染みの場所等への外出希望は少ない現状ですが、希望がある時は家族の協力や外出行事に取り入れるなどで対応しています。家族や知人等が来訪した際には歓迎し、利用者と一緒に過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う、合わないの関係を把握し、必要に応じて会話が持てるようきっかけを作ったり、また口論になりそうな場合は、タイミングよく介入できるよう、見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困る事や悩む事があれば、いつでも相談にのれる事をお伝えし、知人やご家族の相談が来る事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全を確保した上で、ご本人の希望に添えるよう支援している。困難な場合は、代替案を提示できるようスタッフの中での話し合いも持つように心掛けている。	認知症や要介護度の進行から思いや意向を表出することが出来ない場合は利用者との日頃の関わりや家族からの情報をもとに職員間で検討しています。利用者が望むと思われる複数の提案などで把握するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階から情報収集に努め、入居されてからも日々の会話の中から、一人ひとりの状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や行動の様子、歩行や食事の様子などから現状の把握ができるよう見守りしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々観察を行い、それをスタッフ、ご家族様、またご本人と共有し、介護計画に反映している。	介護計画の定期見直しは3ヵ月毎で、利用者の状態変化に応じて毎月のケア会議で見直しの必要性について検討しています。見直す場合は家族や主治医とも相談し利用者の現状に即した計画とし、全職員がその内容を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や日々の変化については、記録に残し、スタッフ間で共有し実践や見直しに生かすよう対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな日課の規定はあるが、その日、その人により、散歩にでたり、ウッドデッキで日光浴をしたりなど、日課に囚われないサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、地域のお祭り、初もうでなど、季節ごとの行事を安全に楽しめるような支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診、歯科の定期的な往診を受け、また必要に応じて、他の医療機関の受診も行い、医療の質は確保できている。	24時間対応の協力医療機関による毎月の定期訪問診療と月2回の訪問看護を利用しています。希望により歯科の訪問診療も随時あります。かかりつけ医への通院には職員が付き添い、受診結果を家族へ伝えていきます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、定期的に訪問看護を受け、その際に体調面の変化などを報告し、適切な対応や受診につなげる事ができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、随時の面会を行い、病院関係者から体調面の説明を受けるなど、早期の退院に向けての対応を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時を始め、ご家族との面談や相談業務など随時、終末期についての話題に触れ、実際に看取り期に入る時期には、再度十分な説明を行い、提携医療機関の医師とともに支援できる体制ができています。	事業所での看取りも可能で契約時に「看取りに関する指針」説明と同意書、「看取りの事前確認書」、「ターミナルケアに対する要望書」を交わしています。利用者の状態に応じて「終末期ケア確認書」を作成しています。職員も事業所の方針を理解し、終末期支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な外部研修を受け、定例ミーティングで全スタッフへフィードバックを行い、緊急時に備えている。また、緊急連絡先や医療機関の連絡先等も整備している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	警備会社、消防、町内会の皆様と共に避難訓練を定期的に行い、非常時に備えている。	併設の小規模多機能事業所と合同で年2回訓練を実施しています。消防署の指導を受け地域住民も参加しています。他の地区にある系列事業所との連携体制や備蓄品があり停電などの対策も検討中です。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や優しい言葉がけを心掛けている。疑問に思う対応があった際には、スタッフ同士で声を掛け合えるような職場環境を作る努力を続けている。	接遇など利用者との関わり方についての研修があります。管理者は職員に対し日常業務を通して適切な対応を助言しています。各種個人記録類も適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや会話の中で信頼関係を築き、ご利用者様が思いを口に出しやすいように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その方のペースや状況に応じた希望など、声掛けにより把握し、出来る限りその思いに沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師の訪問があり、定期的にかットや顔そり等を受けていただいている。外出の際の女性の化粧、男性のひげそりなども一緒に行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える際に、ご利用者様の食べたい物を伺ったり、嫌いな物がある際は別の物の提供を考えたり、個人に合わせた対応を行っている。また、また、簡単な調理や配膳や下膳などをご利用者様と一緒にやっている。	利用者の嗜好や病状に配慮した食事を提供しています。利用者は調理の手伝いなどの役割をもって参加しています。季節行事食、誕生日に利用者の好きな食事を提供し、外食など変化のある食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	[kizuna		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。その方にあつたケアの道具もそれぞれに揃えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩行や立位の取れる方はトイレへ誘導している。状態が変化し、排泄の間隔が変わってきた場合は、日々の記録を参考にし、排泄リズムを把握できるようスタッフ内で検討を重ねている。	排泄チェック表をもとに時間の間隔や利用者の様子や表情などを観察しながら声かけ誘導でトイレでの排泄を支援しています。また、下着類も利用者の状態に合わせて快適に過ごせるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、排便の間隔を掴み、水分の強化や運動の声掛けなどを行っている。また、医師からの指示があるご利用者様については、指示に応じた服薬などで管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	大まかな曜日や時間帯はあるが、希望に合わせて入浴できよう支援している。	利用者毎に入浴日を設定していますが、体調や希望に合わせて日時の変更もしています。浴室には全身シャワー設備や機械浴設備もあり、利用者の状態に合わせて入浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様それぞれの睡眠パターンを掴み、それに合わせた臥床時間で声掛けする等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、セットの際のチェック表、服薬の際のチェック表を用い、実際の服薬の際には、2名の職員で対応するなど、細心の注意を払っている。処方内容が変わった際には、全スタッフに周知徹底を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や小物作り、また畑仕事など、ご利用者様の興味のある事や得意な事をしていただく事により、楽しみや役割を持ってもらっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、出来るだけ外へ出かけられよう機会を作っている。外に出られない場合でも窓やベランダを開けて風や日光に当たったりなどされている。また、季節ごとの外出行事も企画し実践している。	気候に合わせて事業所周辺や公園での散歩を行っています。また、法人主催の敬老会に参加したり、盆踊りなど町内会行事の見学、桜や梅の花見、動物園見学、ウッドデッキで外気浴を楽しむなど戸外で外気に触れる機会を多く持つよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方がほとんどだが、事業所内の行事で疑似通貨を使ったりしていただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代読や代書、また電話の希望があれば介助するなどの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁やカーテンの色は淡く目に優しい色を使っている。また、刺激のある音、光などは用いていない。廊下の壁にはご利用者様の協力を得て作った季節の飾りなどを飾り楽しんで頂いている、	窓が広く明るい居間兼食堂は、床下からの温風暖房で温度管理を行い、節句の飾りなどで季節感を演出しています。廊下の壁面には行事を楽しむ利用者の写真などが飾られています。浴室やトイレなどの水回りも臭気や清掃に配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は概ね決まっているが、その時々に応じた座席の配慮を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、あらかじめ居室内を見ていただき、ご家族様に部屋のしつらいのイメージを持っていただき、それに沿った室内の準備をしていただいている。また、ご本人の希望に応じて模様替えなどの支援も行っている。	居室には大容量のクローゼットが設置されています。利用者は、馴染みの家具類や生活用品を好きなように配置し、壁面に手作り作品や家族写真を飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや椅子の置き場所、洗面所の使いやすい場所等をスタッフが把握し、見守りができ安全に、かつできる事を活かせるように支援している。			